

3 特別会計

(1) 国民健康保険(事業勘定)

① 歳 入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	(C/A)	(C/B)
25年度	16,901,026	20,026,505	17,253,318	355,468	2,417,719	102.1	86.2
24年度	16,412,583	19,562,656	16,699,810	394,717	2,468,129	101.8	85.4
比較増減	488,443	463,849	553,508	△ 39,249	△ 50,410	0.3	0.8
増 減 比	3.0	2.4	3.3	△ 9.9	△ 2.0	—	—

本年度の歳入決算は、収入済額 17,253,318 千円で、予算現額 16,901,026 千円に対し 352,929 千円(2.1%)の増加であり、調定額 20,026,505 千円に対して 86.2%の収入率である。収入済額を前年度と比較すると 553,508 千円(3.3%)の増加となっている。

収入済額の主なものは、国民健康保険税 4,955,532 千円(構成比 28.7%)、国庫支出金 4,337,114 千円(構成比 25.1%)、前期高齢者交付金 3,102,170 千円(構成比 18.0%)及び共同事業交付金 1,685,576 千円(構成比 9.8%)等である。

なお、国民健康保険税には収入未済額 2,417,719 千円(前年比 98.0%)がある。

また、不納欠損額は 355,468 千円(前年比 90.1%)となっている。その主な原因は、生活困窮によるもの、行方不明によるもの等であり、いずれも地方税法等の規定に基づき、適正な手続きにより処理されているものと認められたが、負担の公平を期するうえから、不納欠損額の減少に尚一層の努力を望むものである。

② 歳 出

(単位 千円・%)

区 分	予算現額	支出済額	不 用 額	執 行 率
25年度	16,901,026	16,165,910	735,116	95.7
24年度	16,412,583	15,995,335	417,248	97.5
比較増減	488,443	170,575	317,868	△ 1.8
増 減 比	3.0	1.1	76.2	—

本年度の歳出決算は、支出済額 16,165,910 千円で、予算現額 16,901,026 千円に対し、95.7%の執行率であり、不用額 735,116 千円を生じている。支出済額を前年度と比較すると 170,575 千円(1.1%)の増加となっている。

支出済額の主なものは、保険給付費の中の療養諸費 9,357,538 千円(構成比 57.9%)並びに高額療養費 1,038,231 千円(構成比 6.4%)、後期高齢者支援金 2,416,901 千円(構成比 15.0%)、共同事業拠出金 1,777,124 千円(構成比 11.0%)及び介護納付金 1,071,425 千円(構成比 6.6%)等である。

本年度の実質収支額は、1,087,408 千円であり、そのうち 600,000 千円を地方自治法第 233 条の 2 の規定により国民健康保険財政調整基金へ繰入し、残り 487,408 千円を翌年度へ繰越している。

(2) 介護保険

① 歳 入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	(C/A)	(C/B)
25年度	9,234,759	9,315,613	9,229,072	22,663	63,878	99.9	99.1
24年度	8,618,123	8,711,354	8,629,705	22,682	58,967	100.1	99.1
比較増減	616,636	604,259	599,367	△ 19	4,911	△ 0.2	0.0
増 減 比	7.2	6.9	6.9	△ 0.1	8.3	—	—

本年度の歳入決算は、収入済額 9,229,072 千円で、予算現額 9,234,759 千円に対し 5,687 千円(0.1%)の減少であり、調定額 9,315,613 千円に対して 99.1%の収入率である。収入済額を前年度と比較すると 599,367 千円(6.9%)の増加となっている。

収入済額の主なものは、支払基金交付金 2,510,294 千円(構成比 27.2%)、国庫支出金 1,904,904 千円(構成比 20.6%)、介護保険料 1,859,490 千円(構成比 20.1%)、繰入金 1,655,064 千円(構成比 17.9%)及び県支出金 1,276,378 千円(構成比 13.8%)等である。

なお、介護保険料には、収入未済額 63,878 千円(前年比 108.3%)がある。

また、不納欠損額は 22,663 千円(前年比 99.9%)となっている。その主な原因は、生活困窮によるもの等であり、介護保険法等の規定に基づき適正な手続きにより処理されているものと認められたが、負担の公平を期するうえから、不納欠損額の減少に尚一層の努力を望むものである。

② 歳 出

(単位 千円・%)

区 分	予算現額	支出済額	不用額	執行率
25年度	9,234,759	9,029,945	204,814	97.8
24年度	8,618,123	8,570,874	47,249	99.5
比較増減	616,636	459,071	157,565	△ 1.7
増 減 比	7.2	5.4	333.5	—

本年度の歳出決算は、支出済額 9,029,945 千円で、予算現額 9,234,759 千円に対し 97.8%の執行率であり、不用額 204,814 千円を生じている。支出済額を前年度と比較すると 459,071 千円(5.4%)の増加となっている。

支出済額の主なものは、保険給付費 8,559,739 千円(構成比 94.8%)、総務費 274,012 千円(構成比 3.0%)及び地域支援事業費 175,757 千円(構成比 1.9%)等である。

本年度の実質収支額は、199,127 千円であり、そのうち 118,866 千円を地方自治法第 233 条の 2 の規定により介護保険給付基金へ繰入し、残り 80,261 千円を翌年度へ繰越している。

(3) 後期高齢者医療

① 歳 入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	(C/A)	(C/B)
25年度	1,325,659	1,319,028	1,301,883	4,167	12,978	98.2	98.7
24年度	1,289,936	1,281,490	1,264,922	4,985	11,583	98.1	98.7
比較増減	35,723	37,538	36,961	△ 818	1,395	0.1	0.0
増 減 比	2.8	2.9	2.9	△ 16.4	12.0	—	—

本年度の歳入決算は、収入済額 1,301,883 千円で、予算現額 1,325,659 千円に対し 23,776 千円 (1.8%) の減少であり、調定額 1,319,028 千円に対して 98.7% の収入率である。収入済額を前年度と比較すると 36,961 千円 (2.9%) の増加となっている。

収入済額の主なものは、後期高齢者医療保険料 957,447 千円 (構成比 73.5%) 及び一般会計繰入金 297,087 千円 (構成比 22.8%) 等である。

なお、後期高齢者医療保険には、収入未済額 12,978 千円 (前年比 112.0%) がある。

また、不納欠損額は 4,167 千円 (前年比 83.6%) となっている。その主な原因は、生活困窮によるもの等であり、高齢者の医療の確保に関する法律等の規定に基づき適正な手続きにより処理されているものと認められたが、負担の公平を期するうえから、不納欠損額の減少に尚一層の努力を望むものである。

② 歳 出

(単位 千円・%)

区 分	予算現額	支出済額	不 用 額	執 行 率
25年度	1,325,659	1,297,167	28,492	97.9
24年度	1,289,936	1,259,707	30,229	97.7
比較増減	35,723	37,460	△ 1,737	0.2
増 減 比	2.8	3.0	△ 5.7	—

本年度の歳出決算は、支出済額 1,297,167 千円で、予算現額 1,325,659 千円に対し 97.9% の執行率であり、不用額 28,492 千円を生じている。支出済額を前年度と比較すると 37,460 千円 (3.0%) の増加となっている。

支出済額の主なものは、後期高齢者医療広域連合納付金 1,117,712 千円 (構成比 90.8%)、総務費 70,414 千円 (構成比 5.4%) 及び後期高齢者健診事業費 46,164 千円 (構成比 3.6%) 等である。

本年度の実質収支額は 4,716 千円で、全額翌年度へ繰越している。

(4) 病院事業債管理事業

① 歳 入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	(C/A)	(C/B)
2 5 年 度	455,000	442,345	442,345	97.2	100.0
2 4 年 度	—	—	—	—	—
比 較 増 減	455,000	442,345	442,345	—	—
増 減 比	皆増	皆増	皆増	—	—

平成 25 年 4 月 1 日の小山市民病院の地方独立行政法人化に伴い、病院事業の地方債を管理するために設置された特別会計である。

本年度の歳入決算は、収入済額 442,345 千円で、予算現額 455,000 千円に対し 12,655 千円 (2.8%) の減少であり、調定額 442,345 千円に対して 100.0% の収入率である。

収入済額の内訳は、市債 297,600 千円 (構成比 67.3%) 及び貸付金元利収入 144,745 千円 (構成比 32.7%) 等である。

② 歳 出

(単位 千円・%)

区 分	予算現額	支出済額	不用額	執行率
2 5 年 度	455,000	442,345	12,655	97.2
2 4 年 度	—	—	—	—
比 較 増 減	455,000	442,345	12,655	—
増 減 比	皆増	皆増	皆増	—

本年度の歳出決算は、支出済額 442,345 千円で、予算現額 455,000 千円に対し 97.2% の執行率であり、不用額 12,655 千円を生じている。

支出済額の内訳は、貸付金 297,600 千円 (構成比 67.3%)、公債費 144,745 千円 (構成比 32.7%) である。

本年度の実質収支額は 0 千円である。

(5) 墓園やすらぎの森事業

① 歳 入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	収入未済額	(C/A)	(C/B)
2 5 年 度	111,400	189,170	188,939	231	169.6	99.9
2 4 年 度	52,000	113,647	113,460	187	218.2	99.8
比 較 増 減	59,400	75,523	75,479	44	△ 48.6	0.1
増 減 比	114.2	66.5	66.5	23.5	—	—

本年度の歳入決算は、収入済額 188,939 千円で、予算現額 111,400 千円に対し 77,539 千円 (69.6%) の増加であり、調定額 189,170 千円に対して 99.9% の収入率である。収入済額を前年度と比較すると 75,479 千円 (66.5%) の増加となっている。

収入済額の内訳は、繰越金 76,456 千円 (構成比 40.5%)、使用料及び手数料 63,484

千円(構成比 33.6%)及び市債 49,000 千円(構成比 25.9%)である。

なお、手数料の墓地管理料に若干の収入未済が生じている。

② 歳 出

(単位 千円・%)

区 分	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	執 行 率
2 5 年 度	111,400	101,999	9,401	91.6
2 4 年 度	52,000	37,005	14,995	71.2
比 較 増 減	59,400	64,994	△ 5,594	20.4
増 減 比	114.2	175.6	△ 37.3	—

本年度の歳出決算は、支出済額 101,999 千円で、予算現額 111,400 千円に対し 91.6%の執行率であり、不用額 9,401 千円を生じている。支出済額を前年度と比較すると 64,994 千円(175.6%)の増加となっている。

支出済額の内訳は、墓園整備事業費 69,153 千円(構成比 67.8%)、総務費 20,209 千円(構成比 19.8%)及び公債費 12,637 千円(構成比 12.4%)である。

本年度の実質収支額は 86,940 千円で、全額翌年度へ繰越している。

(6) 与良川水系湛水防除事業

① 歳 入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	(C/A)	(C/B)
2 5 年 度	41,515	37,241	37,241	89.7	100.0
2 4 年 度	32,200	26,489	26,489	82.3	100.0
比 較 増 減	9,315	10,752	10,752	7.4	0.0
増 減 比	28.9	40.6	40.6	—	—

本年度の歳入決算は、収入済額 37,241 千円で、予算現額 41,515 千円に対し 89.7%の収入率であり、調定額 37,241 千円に対して 100.0%の収入率である。収入済額を前年度と比較すると 10,752 千円(40.6%)の増加となっている。

収入済額の内訳は、一般会計繰入金 26,700 千円(構成比 71.7%)、繰越金 5,417 千円(構成比 14.5%)、分担金及び負担金 5,124 千円(構成比 13.8%)である。

② 歳 出

(単位 千円・%)

区 分	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	執 行 率
2 5 年 度	41,515	31,519	9,996	75.9
2 4 年 度	32,200	21,072	11,128	65.4
比 較 増 減	9,315	10,447	△ 1,132	10.5
増 減 比	28.9	49.6	△ 10.2	—

本年度の歳出決算は、支出済額 31,519 千円で、予算現額 41,515 千円に対し 75.9%の執行率であり、不用額 9,996 千円を生じている。支出済額を前年度と比較すると

10,447千円(49.6%)の増加となっている。

支出済額の内訳は、荒川排水機場費15,547千円(構成比49.3%)、与良川排水機場費14,854千円(構成比47.1%)及び塩沢排水機場費1,118千円(構成比3.6%)である。

本年度の実質収支額は5,722千円で、全額翌年度へ繰越している。

(7) 農業集落排水処理事業

① 歳入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	(C/A)	(C/B)
25年度	542,188	556,478	541,937	2,469	12,072	100.0	97.4
24年度	629,500	636,733	620,838	332	15,563	98.6	97.5
比較増減	△ 87,312	△ 80,255	△ 78,901	2,137	△ 3,491	1.4	△ 0.1
増 減 比	△ 13.9	△ 12.6	△ 12.7	643.7	△ 22.4	—	—

本年度の歳入決算は、収入済額541,937千円で、予算現額542,188千円に対し251千円(0.05%)の減少であり、調定額556,478千円に対して97.4%の収入率である。収入済額を前年度と比較すると78,901千円(12.7%)の減少となっている。

収入済額の主なものは、一般会計繰入金428,000千円(構成比79.0%)、使用料及び手数料105,731千円(構成比19.5%)、繰越金5,089千円(構成比0.9%)等である。

なお、収入未済額の内訳は、農業集落排水事業受益者分担金4,639千円(前年比62.4%)、農業集落排水使用料及び手数料7,433千円(前年比91.4%)である。

また、不納欠損額は2,469千円(前年比743.7%)となっている。その主な原因は、生活困窮によるもの等であり、地方自治法等の規定に基づき、適正な手続きにより処理されていると認められたが、負担の公平を期するうえから、不納欠損額の減少に尚一層の努力を望むものである。

② 歳出

(単位 千円・%)

区 分	予算現額	支出済額	不用額	執行率
25年度	542,188	536,956	5,232	99.0
24年度	629,500	615,749	13,751	97.8
比較増減	△ 87,312	△ 78,793	△ 8,519	1.2
増 減 比	△ 13.9	△ 12.8	△ 62.0	—

本年度の歳出決算は、支出済額536,956千円で、予算現額542,188千円に対し99.0%の執行率であり、不用額5,232千円を生じている。支出済額を前年度と比較すると78,793千円(12.8%)の減少となっている。

支出済額の主なものは、公債費358,995千円(構成比66.9%)、総務費の中の施設管理費142,447千円(構成比26.5%)等である。

本年度の実質収支額は、4,981千円で、全額翌年度へ繰越している。

(8) 小山第四工業団地造成事業

① 歳入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	(C/A)	(C/B)
25年度	309,100	289,942	289,942	93.8	100.0
24年度	—	—	—	—	—
比較増減	309,100	289,942	289,942	—	—
増減比	皆増	皆増	皆増	—	—

鉢形地内の四つ沼を工業団地として開発するため設置された特別会計である。

本年度の歳入決算は、収入済額 289,942 千円で、予算現額 309,100 千円に対し 19,158 千円 (6.2%) の減少であり、調定額 289,942 千円に対して 100.0% の収入率である。

収入済額の内訳は、市債 289,000 千円 (構成比 99.7%) 及び一般会計繰入金 942 千円 (構成比 0.3%) 等である。

② 歳出

(単位 千円・%)

区 分	予算現額	支出済額	不用額	執行率
25年度	309,100	289,942	19,158	93.8
24年度	—	—	—	—
比較増減	309,100	289,942	19,158	—
増減比	皆増	皆増	皆増	—

本年度の歳出決算は、支出済額 289,942 千円で、予算現額 309,100 千円に対し 93.8% の執行率であり、不用額 19,158 千円を生じている。

支出済額の内容は、工業団地造成事業費 289,942 千円 (構成比 100.0%) である。

本年度の実質収支額は 0 千円である。

(9) 公共用地先行取得事業

① 歳入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	(C/A)	(C/B)
25年度	190,100	181,659	181,659	95.6	100.0
24年度	369,200	353,096	353,096	95.6	100.0
比較増減	△ 179,100	△ 171,437	△ 171,437	0.0	0.0
増減比	△ 48.5	△ 48.6	△ 48.6	—	—

本年度の歳入決算は、収入済額 181,659 千円で、予算現額 190,100 千円に対し 8,441 千円 (4.4%) の減少であり、調定額 181,659 千円に対して 100.0% の収入率である。収入済額を前年度と比較すると 171,437 千円 (48.6%) の減少となっている。

収入済額の主なものは、一般会計繰入金 181,650 千円 (構成比 100.0%) 等である。

② 歳 出

(単位 千円・%)

区 分	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	執行率
2 5 年 度	190,100	181,657	8,443	95.6
2 4 年 度	369,200	353,087	16,113	95.6
比 較 増 減	△ 179,100	△ 171,430	△ 7,670	0.0
増 減 比	△ 48.5	△ 48.6	△ 47.6	—

本年度の歳出決算は、支出済額 181,657 千円で、予算現額 190,100 千円に対し 95.6%の執行率であり、不用額 8,443 千円を生じている。支出済額を前年度と比較すると 170,430 千円(48.6%)の減少となっている。

支出済額の内容は、公債費 181,657 千円(構成比 100.0%)である。

本年度の実質収支額は 2 千円で、全額翌年度へ繰越ししている。

(10) 公共下水道事業

① 歳 入

(単位 千円・%)

区 分	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	(C/A)	(C/B)
2 5 年 度	5,034,179	4,845,435	4,780,858	7,456	57,121	95.0	98.7
2 4 年 度	5,011,622	4,801,817	4,738,863	7,270	55,684	94.6	98.7
比較増減	22,557	43,618	41,995	186	1,437	0.4	0.0
増 減 比	0.5	0.9	0.9	2.6	2.6	—	—

本年度の歳入決算は、収入済額 4,780,858 千円で、予算現額 5,034,179 千円に対し 253,321 千円(5.0%)の減少であり、調定額 4,845,435 千円に対して 98.7%の収入率である。収入済額を前年度と比較すると 41,995 千円(0.9%)の増加となっている。

収入済額の主なものは、一般会計繰入金 1,350,000 千円(構成比 28.2%)、市債 1,332,900 千円(構成比 27.9%)、下水道使用料及び手数料 1,231,306 千円(構成比 25.8%)及び国庫支出金 606,537 千円(構成比 12.7%)等である。

なお、収入未済額の主なものは、下水道使用料 35,779 千円(前年比 106.2%)、公共下水道受益者負担金 21,202 千円(前年比 96.4%)等である。

また、公共下水道受益者負担金 4,309 千円(前年比 120.7%)、下水道使用料 3,147 千円(前年比 85.0%)が不納欠損となっている。その主な原因は、生活困窮によるもの、行方不明によるもの等であり、都市計画法及び地方自治法等の規定に基づき、適正な手続きにより処理されていると認められたが、負担の公平を期するうえから、不納欠損額の減少に尚一層の努力を望むものである。

② 歳 出

(単位 千円・%)

区 分	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執 行 率
2 5 年 度	5,034,179	4,624,025	185,000	225,154	91.9
2 4 年 度	5,011,622	4,591,182	204,879	215,561	91.6
比 較 増 減	22,557	32,843	△ 19,879	9,593	0.3
増 減 比	0.5	0.7	△ 9.7	4.5	—

本年度の歳出決算は、支出済額 4,624,025 千円で、予算現額 5,034,179 千円に対し 91.9%の執行率であり、翌年度繰越額 185,000 千円、不用額 225,154 千円を生じている。支出済額を前年度と比較すると 32,843 千円(0.7%)の増加となっている。

支出済額の主なものは、公債費 2,288,260 千円(構成比 49.5%)、公共下水道建設費 1,414,631 千円(構成比 30.6%)及び総務費の中の施設管理費 731,588 千円(構成比 15.8%)等である。

なお、翌年度繰越事業は、公共下水道事業(小山污水)である。

本年度の実質収支額は、歳入歳出差引残高 156,833 千円から、翌年度へ繰越すべき財源 5,000 千円を差引いた 151,833 千円で、全額翌年度へ繰越している。

4 財 産

(1) 公有財産

ア 土地及び建物

平成 25 年度末における土地及び建物現在高は、土地(地積)については 3,396,180.62 m²、建物については、木造(延面積)9,292.84 m²、非木造(延面積)373,258.24 m²となっている。

これを前年度と比較すると、土地は 4,026.54 m²増加し、建物では木造が 89.2 m²減少、非木造が 5,332.17 m²増加している。

内容についてみると、土地の増加の主な事由は、史跡鷲城跡、絹公民館の駐車場用地の購入等によるものである。建物では木造の減少の主な事由は、桑書類倉庫の解体に伴うものである。非木造の増加の主な事由は、新消防庁舎の建設等に伴うものである。

土地・建物の現在高		(単位 m ²)		
区 分		24年度末現在高	25年度中増減高	25年度末現在高
土 地 (地 積)		3,392,154.08	4,026.54	3,396,180.62
建 物	木 造 (面 積)	9,382.04	△ 89.20	9,292.84
	非 木 造 (面 積)	367,926.07	5,332.17	373,258.24
	計	377,308.11	5,242.97	382,551.08

イ 山 林

平成 25 年度末の現在高は、平成 10 年度に購入した並木杉1本である。

ウ 出資による権利

平成 25 年度末における出資による権利は前年度から 51,427 千円減少し、1,380,533 千円である。これは、(財)小山まちづくり協会及び(財)栃木県森林整備公社の解散に伴う出捐金の減少によるものである。

(2) 物 品

平成 25 年度末における財産的備品の現在高は 1,428 件で、年度中の増減は 109 件の増加である。

(3) 債 権

平成 25 年度末における債権の現在高は 1,193,723 千円で、年度中の増減は 777,893 千円の増加となっている。増加の要因は、平成 25 年度より、新たに地方独立行政法人新小山市民病院長期貸付金が始まったためである。

(4) 基金

ア 小山市国民健康保険財政調整基金

平成 25 年度末における現在高は 254,467 千円である。剰余金 250,000 千円、預金利子 63 千円と繰替運用利子 25 千円を積立てたことにより 250,088 千円の増加となっている。

イ 小山市財政調整基金

平成 25 年度末における現在高は 719,369 千円である。小野塚氏財産売払分 23,264 千円、小野塚氏賃借料 198 千円、一般財源 46,278 千円、預金利子 171 千円と繰替運用利子 97 千円を積立て、小山広域保健衛生組合のコンポスト搬出費用負担金支払のため 1,436,800 千円、平成 26 年 2 月の大雪による農作物及び農業用施設への被害に係る支援のため 272,600 千円を取り崩したことにより、1,222,942 千円の減少となっている。

ウ 小山市育英基金

平成 25 年度末における現在高は 5,402 千円で、預金利子を積立てたことにより 1 千円の増加となっている。

エ 小山市社会福祉基金

平成 25 年度末における現在高は 83 千円で、寄付金 10 千円を積立てたことにより 10 千円の増加となっている。

オ 小山市住宅新築資金等借入償還基金

平成 25 年度末における現在高は 0 千円である。貸付金回収金 5,687 千円を積立て、5,687 千円を取り崩したことにより同額となっている。

カ 小山市体育館建設基金

平成 25 年度末における現在高は 965,946 千円で、預金利子を積立てたことにより 410 千円の増加となっている。

キ 小山市市債管理基金

平成 25 年度末における現在高は 363,753 千円である。預金利子 118 千円と繰替運用利子 77 千円を積立てたことにより 195 千円の増加となっている。

ク 小山市立博物館資料取得基金

平成 25 年度末における現在高は 1,957 千円で、預金利子が少額のため昨年度と同額となっている。

ケ 小山市庁舎建設基金

平成 25 年度末における現在高は 1,304,413 千円である。一般財源 100,000 千円、預金利子 488 千円と繰替運用利子 205 千円を積立てたことにより 100,693 千円の増加となっている。

コ 小山市児童生徒交流基金

平成 25 年度末における現在高は 13,931 千円である。寄付金 50 千円と預金利子 4 千円を積立てたことにより 54 千円の増加となっている。

サ 小山市高齢者地域福祉基金

平成 25 年度末における現在高は 58,277 千円で、預金利子 31 千円を積立て、高齢者の保健福祉の増進等地域福祉の向上に資する事業の財源に充てるため 20,000 千円を取り崩したことにより 19,969 千円の減少となっている。

シ 小山市勤労者総合福祉センター建設基金

平成 25 年度末における現在高は 19,099 千円で、預金利子を積立てたことにより 4 千円の増加となっている。

ス 小山市介護保険給付基金

平成 25 年度末における現在高は 119,395 千円である。剰余金 38,795 千円、預金利子 188 千円と繰替運用利子 44 千円を積立て、介護保険給付の財源に充てるため 284,358 千円を取り崩したことにより 245,331 千円の減少となっている。

セ 小山市グラウンドワーク基金

平成 25 年度末における現在高は 51,849 千円である。寄付金 7,320 千円と預金利子 30 千円を積立て、グラウンドワーク事業の財源に充てるため 8,969 千円を取り崩したことにより 1,619 千円の減少となっている。

ソ 小野塚記念青少年健全育成基金

平成 25 年度末における現在高は 94,623 千円である。預金利子 41 千円を積立て、青少年の育成を目的とした事業の財源に充てるため 930 千円を取り崩したことにより 889 千円の減少となっている。

タ 小山市文化芸術振興基金

平成 25 年度末における現在高は 77,825 千円である。預金利子 31 千円を積立て、文化芸術の振興及び活動の支援事業の財源に充てるため 1,523 千円を取り崩したことにより 1,492 千円の減少となっている。

チ 小山評定ふるさと応援基金

平成 25 年度末における現在高は 1,169 千円である。寄付金 1,168 千円、預金利子 1 千円を積立て、個性と活力のある住みよいまちづくりを推進する事業の財源に充てるため 3,214 千円を取り崩したことにより 2,045 千円の減少となっている。

ツ 東日本大震災復興推進基金

平成 25 年度末における現在高は 29,148 千円である。預金利子 26 千円を積立て、東日本大震災からの復興を図るための事業の財源に充てるため 30,000 千円を取り崩したことにより、29,974 千円の減少となっている。

テ 平和基金

平成 25 年度末における現在高は、1,065 千円である。平和募金 36 千円と、預金利子を積み立てたことにより、37 千円の増加となっている。

ト 子ども甲状腺検査基金

平成 25 年度末における現在高は 48,006 千円である。一般財源の 24,000 千円と、預金利子 6 千円を積み立てたことにより 24,006 千円の増加となっている。

ナ 新小山市民病院建設基金

新小山市民病院建設事業の財源に充てるため、本年度設置された基金である。特定財源の 569,909 千円を積み立て、平成 25 年度末における現在高は 569,909 千円である。

ニ 運用基金である小山市土地開発基金と小山市国民健康保険高額療養資金貸付基金については、次のとおりである。

各基金運用状況の概要

1 小山市土地開発基金

この基金の管理運用状況は次表のとおりである。

表 1 基金の年度末現在高

(単位 千円)

区 分		24年度末現在高	25年度中増減高	25年度末現在高
基金の額		632,504	37	632,541
内訳	現金	83,231	37	83,268
	土地	549,273	0	549,273

表 2 基金の運用状況

ア 現金 (単位 千円)

区 分		金 額
受入	前年度繰越金	83,231
	運用益金	37
	土地売払金	0
	合 計	83,268
払出	一般会計繰出金	0
差引残高		83,268

イ 土地 (単位 m²・千円)

区 分	面 積	金 額
24年度末現在高	8,495.54	549,273
購入高	0.00	0
売払高	0.00	0
25年度末現在高	8,495.54	549,273

本年度末の基金の現在高は 632,541 千円で、これを前年度と比較すると 37 千円の増加となっている。これは現金において預金利子 37 千円が増加したためである。

2 小山市国民健康保険高額療養資金貸付基金

この基金は 10,047 千円の原資で運用され、その管理運用状況は次表のとおりである。

表 3 基金の年度末現在高

(単位 千円)

区 分		24年度末現在高	25年度中増減高	25年度末現在高
基 金 の 額		10,047	3	10,050
内 訳	現 金	10,047	3	10,050
	貸 付 金	0	0	0

表 4 基金の運用状況

ア 現金 (単位 千円)

区 分		金 額
受 入	前年度繰越金	10,047
	貸付金返還金	1,589
	運 用 益 金	3
	合 計	11,639
払出	貸 付 金	1,589
差 引 残 高		10,050

イ 貸付金 (単位 千円)

区 分	件数	金 額
24年度末現在高	0	0
貸 付 金	12	1,589
貸付金返還金	12	1,589
25年度末現在高	0	0

本年度中の貸付件数は 12 件、貸付金額は 1,589 千円で、前年度と比較すると件数で 68 件(85.0%)、金額で 5,404 千円(77.3%)の減少となっている。